

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	上富福祉第 7 8 5 号
		決裁期日	令和 5 年 8 月 1 5 日
名 称	第 2 回上富良野町地域福祉計画策定委員会		
日 時	令和 5 年 7 月 3 1 日 (月) 1 3 時 3 0 分～1 5 時 2 0 分		
場 所	保健福祉総合センターかみん 多目的ホール		
出席者	(委員) 10 名 (別紙)、欠席委員 4 名 (役場) 深山課長、三好主幹、加藤主幹、大井主任、用川主事、門木主事 (ぎょうせい) 木戸 様 (リモート出席) ※オブザーバーとして社会福祉協議会 久保田事務局長が傍聴		
内 容	<p>・会長あいさつ</p> <p>【議題】</p> <p>1 アンケート調査進捗状況について 資料に基づき、事務局・(株)ぎょうせいより説明。</p> <p>■質疑・意見等</p> <p>委 員～回答率が低い年代に対して補足調査を行う予定はあるのか。 事務局～現役世代である 30 代・40 代の回答率が低かったが、全体を見ると 3 割以上の回答で統計的には網羅されているため、問題ないと思っている。 集計の途中で進捗状況を確認したところ若い世代が少なかったため、一部の子育て世代に案内し、回答いただいた経過もあり、今回はこの数字で集計を行う。</p> <p>2 第 3 次計画における検証評価について 資料に基づき、事務局より説明。</p> <p>3 意見交換 (グループ討議)</p> <p>【第 1 グループ】</p> <p>(・ 構成委員 田中委員、大場委員、谷口委員、村上委員、西川委員 ・ 事 務 局 加藤主幹(進行)、用川主事(記録)、門木主事)</p> <p>・ 同じ人が複数のサービスを求めている、多様化が進んでいるのが現状。現在行っているサービスで不足している部分もある。</p> <p>・ 現在行っている認知症サポーターの養成と徘徊ネットワークの維持充実はもちろん、「ほっとカフェ」の開催や新たな小規模認知症カフェの開設を考えている。</p> <p>・ コロナにより外に出ない方が多くなってしまった。独居老人が約 600 人と高齢者世帯が 1,600 人。他者との交流を行わないため認知症の進行がさらに進んで</p>		

いると考えられる。この状態を防止するためのシステムを作ることが重要。コロナ前は昼食会に出ていたが、再開後参加していない約70人の調査を行うと、6人に支援が必要と判定がでた。今後の参加を進めると、行っても話ができないから行かないと話す人もいる。

- ・ふれあいサロンへの参加は住民会長の頑張り次第と考えているが、頑張りが足りないのではないかと。参加者も毎年変わっているし、健康で元気な人しか参加していない。年3回開催して終わりとなっている。
- ・町の除雪サービスの現状は、高齢者事業団の高齢化と人手不足が進んでいるため、ニーズに合わせた支援ができなくなっている。申請があった際の決定基準も難しくなっている。また、実際に除雪サービスを行っている人によると、町のサービスは緊急時の通路の確保のため、最小限の除雪しかしない。そのため、積雪が進んでいくと排雪が問題点となる。排雪をするには通路の確保以外の箇所の除雪も必要とのこと。
- ・町が除雪の機械を用意し、貸し借りをしながら地域で除雪ができればよいのではないかと。
- ・本人が望んでいることと、マネジメントが合っていないことがあり、難しいのが現状。社会福祉協議会はケアマネージャー4人で動いているが、経営がかなり厳しい状態。
- ・今後は、通所を中心に訪問や泊まることも可能で、ヘルパーもいる小規模多機能型居宅介護事業所が重要となると考える。
- ・高齢化によりニーズが増えているが、経営側の負担も増えているのが実態。潰れてしまう法人も増えているため、潰れないための補助等も必要ではないかと。
- ・現在様々な有償ボランティアが増えているが、ボランティアをしたいという人が減っているのが現状。ボランティアへの参加呼びかけだけでは難しいため、参加するためのきっかけが必要だと思ふ。
- ・個人ボランティアに登録したのはいいが、何を行えばいいかわからない人もいるため調整が必要。
- ・社協では1対1の生活支援のボランティアを行っており、令和4年度は約140件のボランティアサービスを行った。
- ・ケアハウスでは畑で何か作ろうと考える人もいて、作ったものを利用者や職員に分けていただくこともある。ただ、それを見て機嫌取りではないか等で悪く思う人もいるのが現状。若い利用者が除雪を手伝ってくれることがあるが、それにより体を壊さないかが心配。
- ・今後働く場所や、趣味、学習ができる場所が必要。老人クラブに入る人が減っている。
- ・ふまねっと運動への参加を勧めたが同じことしか行っていないため飽きた等の理由で断られた。実際は他の様々な活動も行っているが、参加者を増やすことは難しいのが現状。

【第2グループ】

- ・ 構成委員 佐藤(輝)委員、佐藤(祥)委員、水野委員、北村委員、広瀬委員
- ・ 事務局 深山課長、三好主幹(進行)、大井主任(記録)

- ・社会保障制度を使っていない人もいるが、生活保護への抵抗は高齢世代に多く、若い世代にはあまりないようで、申請は昔より増えてきた。だが、生活保護受給者の中には制度に頼って働かない人もいる。
- ・子育て世代では、収入はあるのがお金の使い方が悪く生活困窮となるケースが増えている。そういった相談があった場合、行政による指導を行っている。
- ・ひきこもりについては関係機関で話し合う場があり、連携が大事である。
- ・子どものひきこもりは保護者が一緒にいるため見つけられるが、大人は家族がいなかったり地域との関りが無い場合など見つけるのが難しい。
- ・ひきこもりの人を外に出すというのは難しい。同じ立場の人のコミュニティがあれば外に出やすくなるのでは。何かをするのではなく、ただ集まれる場所があるだけで外に出やすくなる→行政主導だと固いものになってしまうため、そういったコミュニティを当事者等で始めて、行政は場所の提供や助成を行うのが理想的。
- ・成年後見制度について令和2年に社会福祉協議会で権利擁護センターが開設された。成年後見の制度は難しく、一般の方が申請を行うのは難しい。現在、権利擁護センターでは受任者へつなぐところまでを行っているが、ゆくゆくは受任までを行う予定である。
- ・自殺対策で一番大切なことは傾聴である。保健福祉課が窓口になってはいるが、若い世代はメディアやSNSが中心であるため、そういったツールでも相談ができればいい。役場職員にもゲートキーパー研修を行うなど教育が必要。
- ・窓口は色々あるといい。選択肢をたくさん用意して、それを知ってもらうことが大切。誰でもいいから、話を聞くことが自殺対策になる。
- ・義務教育から子供たちに人に助けてもらうことは恥ずかしいことではない、本当に辛いとき、苦しいときには逃げてもいいと教えていくことが必要に感じる。町内では子供の居場所づくりが進んでいる。
- ・昔と問題が変わっており、これまで地域で解決できたものができなくなっている。ひきこもりや生活困窮、認知症は今後も力をいれる問題である。
- ・移動手段の確保について、若い世代にも交通弱者はいるが、町で行っている事業は高齢者・障害者向けである。若い世代にもそういった事業が必要では。

4 その他

次回開催は9月12日（火）を予定。

（閉会時刻 15：20）

上富良野町地域福祉計画策定委員会委嘱者名簿

所属団体・機関等の名称及び役職	氏 名	出 欠
上富良野町身体障害者福祉協会 会長	佐 藤 輝 雄	
手をつなぐ親の会 会長	佐 藤 祥 一	
つばさ会 顧問	宮 崎 守	欠 席
上富良野町社会福祉協議会 会長	田 中 利 幸	
社会福祉法人わかば会 理事長 (ケアハウスかみふらの 施設長)	谷 口 靖	
社会福祉法人富良野あさひ郷 (デイサポートかみふらの 所長)	水 野 雄 二	
ボランティアセンター運営委員会 委員長	村 上 孝 子	
上富良野町女性団体連絡協議会 書記	西 川 美智代	
上富良野町老人クラブ連合会 会長	水 島 雅 夫	欠 席
かみふ子育てネット「くるくる」	北 村 真貴子	
上富良野町民生児童委員協議会 会長	大 場 富 蔵	
上富良野町商工会青年部 部長	木 津 雅 貴	欠 席
上富良野町住民会長連合会 会長	菊 地 昭 男	欠 席
一般公募	広 瀬 美 奈	